

せいかつ かいご じぎょう 生活介護事業 **太陽**

って、こんなところ！

さまざまなハンディのある人たちが、作業活動ではチラシ配りやリサイクルなどの仕事をする、陶芸や公園花壇の水やり、組みひもなどの創作を行うほか、古本を回収してクリーニングを行い、収入を得ています。余暇活動では音楽、エアロビ、散歩、軽食作りなど各種の活動を行い、日々の生活に彩りを添えています。

また、機能の回復や維持、社会復帰を目指してリハビリテーションを行うなど、自分のペースで諸々の活動を実施しています。仲間と出会い、行事や活動を楽しみ、体験の幅を広げています。

各ご利用者の希望にあわせて個別支援計画を作成し、それに基づいて活動を提供しています。仲間や地域の皆さまとの交流を図り、一人ひとりの暮らしや活動を支援しています。

現在 50 名のご利用者が、いきいき・のびのびと過ごされています



- 利用者自治会を毎月1回開催して、ご利用者で話し合い決めていく場があります。
- 毎月“太陽だより”にご利用者のコーナーがあり、さまざまな体験談やお話しを掲載しています。
- 日々の健康を大切にして、ブラッシング指導・医師の往診などを行っています。
- 市内大学生との交流として、運動会や外出のほか、大学構内での物品販売などを定期的に行っています。また、地域のイベントやお祭りに出店して自主製品の販売を行い、積極的に社会参加と地域貢献の機会を設けています。

(生活介護事業太陽主任 津田 和久)



ショートステイ事業 えんじゅ

ショートステイ事業えんじゅは、障害のある方が地域で安心して暮らしていくためのサービスです。冠婚葬祭やご兄弟の学校行事等で介護者や保護者によるご本人の介助が難しい場合や、ご家族のレスパイトなどにご利用いただけます。

- ◎日中一時支援事業 時間：9時～21時の時間にご利用いただけます。
定員：原則2名です。
食事：持参いただくか、購入もしくは外食となります。
- ◎短期入所事業 時間：24時間365日ご利用いただけます。
定員：1泊につき2名です。原則同性同士でのご利用としています。
食事：持参いただくか、購入もしくは外食、調理をすることができます。

※ 詳しくは担当までご連絡ください。

えんじゅは、知的障害・身体障害・精神障害・難病のある方で、幼児から65歳まで、幅広い方がご利用いただけます。

えんじゅに登録している介護人と1対1で過ごすサービスのため、一人ひとりのペースに合わせてお過ごしいただけます。ご利用の際は、どのように過ごしたいか、ご相談ください。部屋は2つで、家庭的な雰囲気をお心がけています。また、楽しく過ごしていただけるよう環境整備を行っています。初めてご利用なさる小さなお子さんは泣いてしまうこともありますが、次第に慣れて、笑顔で親御さんに「行ってらっしゃい」と手を振る姿を見ると、えんじゅで過ごすことを楽しみにしてくれているようで、嬉しくなります。安心してご利用ください。

登録している介護人は学生や主婦、ダブルワークの方などさまざま、幅広い年齢層の方が支援に入ります。未経験でも研修制度があります。介護人の仕事にご興味がある方は、随時募集していますのでご連絡ください。ご紹介も大歓迎です。

(ショートステイエんじゅ主任 山邊 泰子)

えんじゅの由来

平成30年4月に、ショートステイ事業は「えんじゅ(槐)」と名前がつきました。改めて名前の由来をお伝えします。「えんじゅ」はマメ亜科の植物で街中でよく見られる木です。花言葉は「幸福」で、名前が「円寿」と通じることから縁起が良いとされています。えんじゅの木のように、皆さまの身近なサービスとして、幸せのお手伝いができたらという思いをこめて名付けました。



槐(えんじゅ)の木



昨年9月便座を交換しました



昨年6月床を張り替えました



はばだけ!!サンサンゆめまつり開催御礼

昨年10月に開催されたはばだけ!!サンサンゆめまつりは、今年度17回目を数え、また記念すべき令和初の開催となりました。

万葉の里のおまつりは、地域の方にセンターまでお越しいただき、センターの取組や福祉について知っていただくこと、また地域の皆様との交流の機会になることを目標にしています。そのためには「たくさんの方々に興味を持ってもらえるようなおまつりしよう!」という思いから、今年度、さまざまなことにチャレンジしたと振り返っています。

子どもコーナーは、どこか縁日のような楽しい雰囲気とリアルな鉄道模型の展示に、たくさんのお子さんが来場くださいました。イベントコーナーでは音楽やフラダンスを中心としたステージと、ヘアメイクなどの体験と福引を組み合わせたスタンプラリーに参加用紙が早々に足りなくなるほど、多くの方が参加くだ

さいました。模擬店では焼きそばやフランクフルトなど、おまつりらしいフードに、「おいしい!」の声とはじける笑顔があちこちで見られました。

副委員長としてまつりに関わり、貴重な経験をさせていただいたという思いと共に、皆さまと楽しい時間を共有できたことが大きな喜びとして記憶に残っております。おまつりを開催するにあたり、ご理解・ご協力をいただいた地域の皆さま、あたたかい支援をいただいた関係機関の皆さま、当日一緒におまつりを作り上げてくださったボランティアの皆さまに、実行委員を代表し、厚く御礼申し上げます。

これからも、毎年地域で開催を楽しみにされるようなおまつりを目指して、邁進していく所存です。今後とも、はばだけ!!サンサンゆめまつりを応援いただけますと幸いです。今年度も本当にありがとうございます。

副実行委員長 松原真生

ヘルプマーク&ヘルプカードを活用ください

障害のある方には、自分から「困っている」と伝えられなかったり、支援が必要であってもそのことをうまく「伝えられない」方もいます。また周りの方も、そういった場面に合った時、「困っているようだけど、どう手助けしたらよいかわからない」という状況もあります。「ほんの少し手助けが必要の人」と「ほんの少し手助けをしたい人」を結ぶのがヘルプマーク、ヘルプカードになります。



☆ヘルプマークとは

義足や人工関節を使用している方、内部障害や難病の方、または妊娠初期の方など、外見から分からなくても援助や配慮を必要としている方々が、周囲の方に配慮を必要としていることを知らせることで、援助を得やすくなるよう、東京都が作成したマークです。

☆ヘルプカードとは



障害のある方が災害時や日常生活の中で困った時に提示し、必要な支援や配慮を周囲に求めるために携帯するカードのことです。市が作成しています。あらかじめ氏名・障害の特性・手助けしてほしいこと・配慮してほしいこと・緊急連絡先などを記入して、普段から身に付けておくことで、緊急時や災害時、困った際に、周囲の方々に配慮や手助けをお願いしやすくなるものです。

ヘルプマークもヘルプカードも地域活動支援センターつばさで配布しています。これを機に手にとっていたいただき、ご利用ください。

☆お問合せ先

地域活動支援センターつばさ
TEL 042-321-1136

国分寺市民福祉講座

アートを通じて触れる
表現する楽しさ・喜び・可能性

今回の市民福祉講座は3部に分かれて、講演と工作のワークショップを行います。

第1部では、障害がある方も、そうでない方も、どなたでも参加することができるアート教室「だれでもアート・こくぶんじ」を主宰する中村弘子氏をお招きし、アートがもつ自己表現の可能性や、面白さについてお話しいただきます。

第2部では、実際に表現活動をしている当事者の方をお招きし、「表現することは自分自身を支えてくれ、人との出会いをもたらしてくれる」というテーマでご本人の表現することについて、お話を伺います。

第3部では、どなたでも参加できるワークショップ「クシヨップ」を行い、表現する楽しさを体験していただきます。

皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

日時 令和2年1月26日(日)
14時～16時
場所 国分寺市障害者センター
2階多目的室
講師 中村弘子氏(美術家・「だれでもアート」の主宰)
申込み 令和2年1月24日まで(先着30名)
お申込みは電話またはFAXにて
お願いいたします。

☆お問合せ先

地域活動支援センターつばき
TEL 042・321・1136
FAX 042・321・1207

第33回 精神保健福祉講座

病んでも認知症になっても、このまちで。
誇り・味方・居場所

皆さまにとって、住まいは「居場所」になっていますか?今、引きこもりや障害などの理由により、社会とのつながりが持てていない人たちがいます。その要因はどこにあるのでしょうか?今後、私たちが「このまちで、病んでも認知症になっても安心して生活をしていく」ために、どのような手立てがあるのかを考える必要があります。

このような時代に「住みたい街でどのように生ききるか」を考える機会として、今回は朝日新聞100年の歴史で初めての女性論説委員である大熊由紀子氏にご講演いただき、参加者の皆さまと深く考えていきたいと思えます。

日時 令和2年2月22日(土)
12時50分～16時
場所 東京都立多摩図書館
セミナールーム
講師 大熊由紀子氏
(国際医療福祉大学大学院教授、福祉と医療・現場と政策をつなぐ志の縁結び係&小間使い)
申込み 令和2年2月7日までに所定の
申込書にてFAXでお申込みください。
(万葉の里ホームページにも掲載しています。)

資料代 300円
共催 社会福祉法人はらからの家福祉会
社会福祉法人万葉の里

☆お問合せ先

はらからの家福祉会
TEL 042・323・5637

「ご芳志

令和元年10月1日～令和元年12月31日

- ・市瀬寿子様
- ・清水一洋様
- ・星野亮雅様
- ・匿名(ご希望様)
- ・一般社団法人一粒福祉会様
- ・国際文化理容美容専門学校様
- ・国分寺障害者団体連絡協議会様
- ・社会福祉法人にんじんの会様
- ・社会福祉法人けやきの杜様
- ・東京心障協力会様
- ・万葉の里を後援する会様
- ・多数のボランティアの方にご来所いただきました。
- みなさまのご芳志に、心より感謝いたします。

編集後記

編集担当者のつばき

新年明けましておめでとうございます。
五月に改号が行なわれてから八カ月が経ち、令和二年になりました。

令和という元号は万葉集から引用されたこととで、発表されたときに親近感を覚えた方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

令は「物事を始めるのによい」、和は「互いに相手を大切にし、協力し合う関係にあること」の意味が込められていると聞いたとき、今年度から万葉の里に入職した私は、少し励まされたような気持ちになったことを覚えております。

二〇二〇年が皆様にとって幸せなものになりますようお祈りし、また、万葉の里が互いを大切に、協力し合っている一年となりますよう、微力ながら努めて参ります。

本年も、どうぞよろしくお願いいたします。

就労継続支援事業B型こむ主任 伊藤 顕子

発行所 郵便番号一五七〇〇七二

東京都世田谷区祖師谷三二一十七

ヴェルドゥワラ祖師谷一〇二号室

特定非営利活動法人 障害者団体定期刊行物協会

定価五十円